

朗 読 文

からつ風の吹く関東にあつて、冬の鎌倉は随分と暖かく、穏やかな日々^に恵まれる。それでも年末・年始の頃には、寒さも幾分身に^{けいだい}しみるように感じられる。

極楽寺や鶴岡八幡宮はイチョウが散つて、境内には^{けいだい}黄金色の小さな落葉が^いっぱいに敷きつめられる。妙本寺、光則寺のサザンカの薄紅の花もまた冬らしい眺めだ。

年の暮れ、鎌倉の町から、谷や山手から、除夜の鐘の音が無数に響く。あるものは高く澄み、あるものはどっしりと重い音色だ。それらがひとつに溶けあつて古都を満たす。

年が明けると^{はつもうで}初詣。同じ神奈川県下でも横浜の人なら川崎の^{おんたいし}御大師さんによく詣でるが、鎌倉はまず鶴岡八幡宮と決まっている。正月三ヶ日の参拝者は、一八〇万人とも二〇〇万人ともいわれ、参道に並んだ縁起物の出店の間に、人波が揺れ動く。このときばかりは人々の見慣れた山腹の朱の社殿^{しゃでん}が、装いもあらたまつて、新年の気分を醸^かし出す。鶴岡八幡宮は源家などの武士の尊崇^{そんすう}が厚かつただけに、縁起物の破魔矢^{はまや}は、靈験あらたかといわれる。三ヶ日だけで数十万本を売り尽くすとか。

鎌倉はめつたに雪を見ない。それだけに、まれに雪が降つた年は、実に見事な眺めである。古利の大屋根が白くうずくまり、鎌倉の大仏も^{はくぶ}白粉を刷く。ところどころ、日なたに野水仙が銀世界に目の覚めるほど映える。切通し、谷・・・どこも深閑として、風景が透明に澄んでいる。

近年、冬の京都は大変人気があるが、京都だとあらかじめ予定を組み出かけるのが普通だが、それでもうまく冬景色に出会えるとは限らない。その点、東京の人にとつて鎌倉なら、さあ雪が降つたと聞いて、すぐ思い立って出かけることもできよう。まだ冬のこの地に行つたことがないという方には、ぜひ一度お勧めしたい。

二月は鎌倉の各社寺で盛大な節分会。古利の水仙や梅も花をつけ、もう春の雰囲気である。